

【終了報告書】

研修先大学/ 活動先機関名	シドニー大学	参加 プログラム名	オーストラリア シドニープログラム	国名	オーストラリア
氏名		学籍番号		学科	英語英文学科
参加時の 学年	2年	参加費用 (日本円での概算)	841,145円		
参加日程	2025年2月8日～2025年3月2日(3週間)			記入年月日	2025年3月9日

① 参加前について

研修・活動に参加する目標は何でしたか。

私が今回の研修で目指す目的は大きく分けて二つであった。一つは英語力の向上であった。現代社会において、英語は国際的なコミュニケーションの基盤となる言語であり、将来のキャリアや学術的活動において不可欠なスキルである。私は日常的に英語を学習し、基礎的なスキルは身につけていると感じているが、実際、英語圏で生活し、生きた英語を使う環境に身を置くことで、より実践的な語学力を高めたいと考えていた。特にリスニング力やスピーキング力を強化し、自分の考えを正確かつ自信を持って伝えられる力を身につけることや現地の生活を通して、言語そのものだけでなく、言葉の背景にある文化的な意味やニュアンスを深く理解することを目指した。二つ目は異文化交流を通じて多様な視点を学び、私自身の価値観を広げることであった。異なる文化に触れることは自国の文化を再認識するきっかけにもなり、相互理解を深める重要なプロセスである。今回の研修先では、さまざまなバックグラウンドを持つ人々と出会う。これらの交流を通じて、他者の考え方や価値観を尊重する姿勢を養い、同時に自分の意見を適切に伝えるコミュニケーション力を育成し、現地の生活を通して、英語圏の文化や価値観に直接触れ、自分の視野を広げたいと考えていた。日本の文化を紹介し、現地の人々との相互理解を深めることで、文化交流の架け橋として貢献し、培った知識やスキルを将来的には地域社会や国際的な場での活動に活かしていくことであった。

② プログラムについて

研修・活動の感想

シドニー大学では、リーディングスキルを高めるだけでなく、スピーキングスキル、リスニングスキル、文法のスキルなどさまざまなスキルを向上させることができたと考えている。特に、リスニングスキルと文法のスキルの向上を強く実感した。リスニングスキルについては、研修のはじめの3日間は教師が何を言っているのかほとんど理解できなかった。イントネーションやアクセント、話す速さがこれまで学校で学んできた英語とは大きく異なり、最初は苦戦した。しかし、毎日英語の環境に身を置くことで徐々に慣れ、教師の話している内容を少しずつ理解できるようになった。特に、リスニングの問題を解く際には、最初の1週間と比較して正答率が上がり、最終的には満点を取ることができた。これは単に英語を聞く時間が増えただけでなく、文脈から推測する力や重要な情報を聞き取るスキルが向上したことが大きな要因だと考えている。文法については、日本語で学ぶのと英語で学ぶのでは理解の仕方が大きく異なることを実感した。英語で文法の説明を受けることでルールを理論的に学ぶだけでなく、すぐに実践の場で使う機会があったため、より自然に知識を身につけることができた。例えば、現在完了形や仮定法の学習では、講師が英語で例文を提示し、その意味やニュアンスを説明した後、ペアワークやディスカッションを通して実際にその構文を使う練習を行った。このように、学んだ文法を即座に会話の中で活用することで、知識が定着しやすくなったと感じた。また、英語の語順や表現の仕方を理屈ではなく感覚的に理解することができるようになった点も大きな収穫だった。この研修を通して、リスニングと文法のスキルが向上しただけでなく、英語を英語のまま理解する力が養われたと感じている。特に、リスニングでは「聞き取れない」と諦めずに環境に適応しようと努力することが大切であると学び、文法では「使って学ぶ」ことの重要性を実感したため、今後の英語学習にも活かしていきたい。

研修・活動以外の部分についての感想

授業後、友人とさまざまな場所を訪れる機会が多くあった。その行く先々で、現地の人々と交流することにより、価値観や言葉のイントネーションなどについて学ぶことができた。価値観については、オーストラリアでは個人の意見をはっきり伝えることが重視されていると感じた。例えば、カフェで注文するときやお店で買い物をするときでも、相手に対してフレンドリーに話しかける文化があり、日本のように遠慮したり、丁寧すぎる表現を使ったりする必要がないことに驚いた。また、現地の友人と話していると、自分の意見を積極的に述べる文化であることが実感した。ディスカッションの場面でも「自分の考えを持つこと」が重要視されており、たとえ意見が違っても、それを尊重し合う姿勢が印象的だった。言葉のイントネーションについては、オーストラリア英語の特徴的な発音や抑揚に触れる機会が多かった。特に、語尾を上げるイントネーション(Australian rising intonation)が会話の中でよく使われることに気づいた。これは、質問だけでなく、普通の文でも語尾が上がることがあり、最初は疑問文と勘違いすることもあった。また、「mate」や「G'day」などのオーストラリア特有の表現も実際に使われていたのを知り、学校では学ばなかった日常の言い回しを学ぶことができた。このように、授業後の時間を通して、オーストラリアの価値観や英語のイントネーションの特徴を実際の生活の中で学ぶことができた。この経験を通して、英語をただの言語として学ぶのではなく、その背景にある文化や考え方を理解することの大切さを改めて実感した。

現地学生との交流について教えてください。 ※交流がなかった場合は、空欄で構いません。

サークル活動の際に現地の学生と交流する機会があり、「わさび」というサークルの説明会にも参加した。「わさび」は、日本文化に興味のあるオーストラリアの学生と、日本からの留学生が交流できるサークルで、言語や文化の違いを超えてコミュニケーションを取ることができる場だった。説明会では、サークルの活動内容について紹介があり、日本の伝統文化を体験するイベントや日本語と英語を使った言語交換(language exchange)などが行われていることを知った。実際、現地の学生と話す機会があり、日本のアニメや食文化について熱心に話してくれる人も多く、日本に対する関心の高さを感じた。一方で、オーストラリアの文化についても話を聞くことができ、例えば「ハーベキューが国民的なイベントであり、家族や友人と頻りに集まる」といった、日本とは異なるライフスタイルを知ることができた。また、会話の中で英語のスピーキングスキルを実践的に向上させることができたのも大きな収穫だった。カジュアルな表現や、ネイティブが日常的に使うフレーズを学ぶ機会になり、特に「How's it going?」や「No worries.」といった、授業ではあまり扱わない自然な表現を実際に聞いて、使うことができた。さらに、英語が得意な日本人学生が、会話の中でどのように言葉を選び、相手とスムーズにコミュニケーションを取っているのかを観察することで、自分の英語表現の幅を広げるヒントを得ることができた。このサークル活動を通して、英語を学ぶだけでなく、異文化交流の楽しさや、新しい価値観に触れることの大切さを実感した。今後も、こうした交流の機会を大切にしながら、英語だけでなく文化の違いを理解し、柔軟なコミュニケーション能力を身につけていきたいと感じた。

③ 参加の成果について

今回の参加を経て、ご自身の中での学習面・精神面の成果があれば教えてください。

この研修を通じて、学習面・精神面の両方で大きな成果を得ることができた。学習面では、英語を「学ぶ」だけでなく、「使う」ことの重要性を強く実感した。授業では、リスニングや文法のスキルを高めることができたが、それ以上に日常生活やサークル活動を通して、実践的な英語力を身につけることができた。特に、ネイティブスピーカーが使う自然なフレーズやイントネーションに触れたことで、英語を「教科」としてではなく、「生きた言語」として捉えられるようになった。授業で学んだ文法を会話の中で実際に使うことで、より深い理解につながり、英語を使うことへの抵抗がなくなった。精神面では、以前よりも英語を話すことに自信がわいた。研修の初めは、間違えることを恐れて積極的に発言できなかったが、現地の人々と交流する中で「完璧な文法でなくても、伝えようとするのが大切だ」と気づいた。実際に自分の英語が相手に伝わったときの達成感や現地の学生との会話を楽しめるようになった経験は、これからの英語学習への大きなモチベーションとなった。また、ディスカッションやグループワークでは、最初は消極的だったが、次第に積極的に意見を述べることができるようになり、異文化の中で自分の考えを発信する力が身についたと感じている。この研修を通して英語を話すことは間違えるのを恐れるのではなく、積極的に挑戦することが重要であると学んだ。今後もこの経験を活かし、さらなる英語力の向上を目指すとともに、異文化理解を深め、国際的な視野を広げていきたい。

④ その他

その他、気づいたことや今後参加する方へのメッセージがあれば記入してください。

気づいたこと

この研修を通じて「英語を話すことは完璧でなくても大丈夫」ということに気づきました。最初は「文法を間違えたらどうしよう、発音が変わったら恥ずかしい」と思っていたが、現地の人々や先生方は、私の言いたいことをしっかり聞こうとしてくれました。実際に話してみると、細かいミスよりも「伝えようとする気持ち」が大切なのだと実感しました。英語を話すことに自信がない人ほど、この研修で大きく成長できると思います。また、授業以外の時間もとても貴重な学びの機会でした。友人と出かけた時、現地の学生と交流したりすることで、教科書では学べない英語の表現や文化を知ることができました。特に、日常会話では「What's up? (最近どう?)」「Take it easy. (気楽にね)」など、フレンドリーで親しみやすいフレーズが使われていることに気づきました。また、カフェやお店では「Could I get a latte? (ラテをもらえますか?)」のように、学校で習う「Can I?」「Could I?」よりも自然に聞かれていることも新しい発見でした。こうした経験を通して、英語は「勉強するもの」ではなく「コミュニケーションの道具」と改めて感じました。

これから研修に参加する方へのメッセージ

最初は不安かもしれませんが、勇気を持って一歩踏み出してみてください。完璧な英語でなくても大丈夫です。先生や友人、現地の人たちはあなたの言葉を真摯に聞き、ちゃんと受け止めてくれます。間違えても、そこから学べばいいのです。英語を話すことに慣れてくると、どんどん楽しくなりますし「もっと話したい!」という気持ちが自然と湧いてきます。この研修は、英語のスキルだけでなく、自分の考えを伝える力や、新しい文化に触れる楽しさを教えてくれます。ぜひ、たくさんのごことに挑戦し、充実した時間を過ごしてください!

国際センターのHPに掲載してもよい写真があれば添付してください。キャプションもつけてください。

卒業式後に撮った写真



シドニー大学で撮った写真

